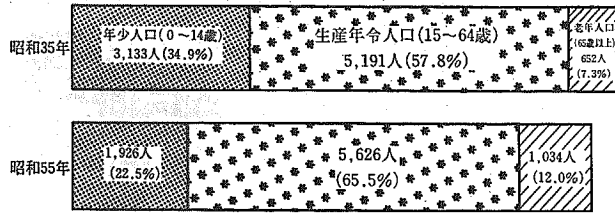


(表6) 階層構成別人口

(国勢調査)



# 村人口

## 今後も増加

# 9000人を突破!

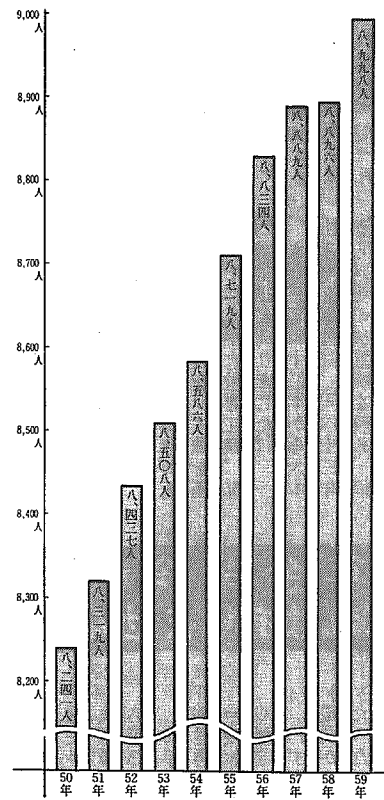
## 傾向、高齢化・核家族化が課題

横越村の人口が昨年十二月初旬に二十五年前より九、〇〇〇人を越えました。村の人口は、今後も増加傾向にあり、このまま推移しますと、数年後には一〇、〇〇〇人になるものと予想されます。

横越村の人口は、昭和五十九年十二月三十一日現在で八、九九八人ですが、同年十二月初旬に一時的に九、〇〇二人となり、昭和三十四年八月以来二十五年前より九、〇〇〇人を越える人口となりました。

(表2) 最近10年間の人口推移

(住民登録毎年12月31日現在)



村の人口の歩みを見ますと(表1)明治三十四年十一月五方村が合併した当時の人口は八、四八八人で、八十三年経った今日と比較してわずかに五二〇人少いだけ。しかし、この間、幾多の社会変動がありました。村の人口も大きく変動してきました。

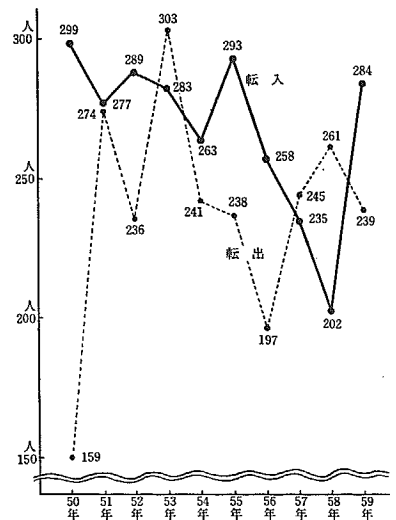
(表1) 横越村の人口のあゆみ

年次	総人口	増減率
明治34年	8,488人	—
大正9年	7,453	△ 0.694
昭和5年	7,798	0.463
10	7,776	△ 0.057
15	8,061	0.733
20	9,197	2.819
25	9,678	1.046
30	9,450	△ 0.483
35	8,976	△ 1.056
40	8,428	△ 1.300
45	8,143	△ 0.700
50	8,121	△ 0.054
55	8,586	1.145

※ 昭和5年以降は国勢調査の人口、増減率は年率である。

(表4) 最近10年間の転入転出の推移

(住民登録毎年12月31日現在)



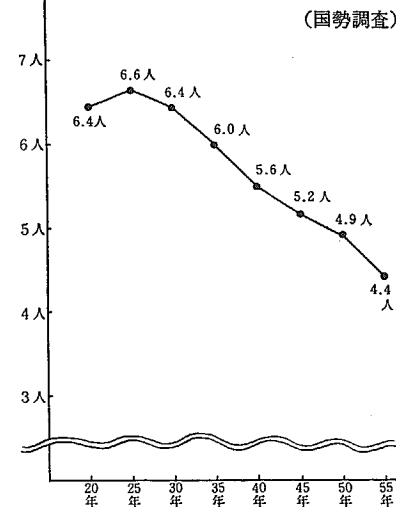
人口構成は、表5で示されているように、昭和三十五年と昭和五十五年の二十年間を比較すると、〇歳から二四歳までのいわゆる青少年の人口が著しく減少しているのに対して、それ以上の年齢層の人口は増加しており、高齢化社会が進行していることがわかります。更に表6ではそのことがはっきりわかります。

また、表7のように、一世帯当りの家族構成も少なくなっており、核家族化の様相を強めています。今後の村の人口の見通しとして、村総合計画第三次基本構想でも昭和六十五年に一〇、五〇〇人、昭和七十五年には一、一、六〇〇人で人口増加を予測しています。

この背景として、村内の七つの住宅団地の住宅建築状況がまだ三三・七%にすぎず、今後に期待がもたれること。(表8)横越村は県都新潟市の衛星地区として立地条件に恵まれ、近い将来市街化区域の拡大の動きや工場団地造成の動きもあり、社会的、経済的発展とともに、これらが人口増加に大きく起因してきます。

(表7) 最近10年間の一世帯当りの家族構成

(国勢調査)



(表8) 住宅団地、住宅建設状況

(昭和58年11月現在、但し、県住宅供給公社団地は59年12月現在)

団地名	建設計画数	建設済数	建設率
日東団地(川根谷内)	150戸	59戸	39.3%
寿団地(二本木)	175	70	40.0
コープ第一団地(横越)	69	37	53.6
〃第二団地(横越)	50	31	62.0
〃第三団地(川根谷内)	19	11	57.9
南台団地(川根谷内)	46	5	10.9
公社横越団地(横越)	66	4	6.1
計	575	217	33.7

2月期児童手当を2月12日該当者の口座に振り込みます。



懐炉といえは、老人のものとかわらぬのは昔のこと。今や懐炉はスキーに行く若者や、スタイルを気にして薄着する娘さんたちの必需品。こんなことになったのは、使い捨て懐炉が登場して以来のことです。

### 懐炉

懐炉といえは、老人のものとかわらぬのは昔のこと。今や懐炉はスキーに行く若者や、スタイルを気にして薄着する娘さんたちの必需品。こんなことになったのは、使い捨て懐炉が登場して以来のことです。

使い捨て懐炉がこんなに伸びたのはここ数年のことです。使い捨て懐炉の内容は、鉄粉、水、塩、活性炭、保水剤などを混ぜたもので、これが空気中の酸素に触れると発熱する仕組みになっています。一説には、朝鮮戦争の時、アメリカ兵が鉄粉に塩や水などを混ぜて発熱させ、保温に使ったのにヒントを得たといわれていますが、本格的に生産しているのは日本だけではないかと考えられます。

メリカ、カナダなどに輸出されています。昔の懐炉は、石や塩を温めたものでした。ちょっと前までは、懐炉の懐炉や、ペンジンを使う懐炉が主流でしたが、今は使い捨て懐炉に追われて、売れ行き激減だそうなんです。使い捨て懐炉は、普通サイズのほかに手袋などに使えるミニサイズや、靴に用いられる酸素の少ないタイプのものなども登場しており、ますます親しまれそうです。